

## はじめに

財務書類（財務4表）とは、企業会計に用いられる発生主義の考え方に基づいて作成された財務資料であり、公会計では4表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書及び資金収支計算書）を作成することとされています。単年度の現金収支のみに着目した決算書とは異なり、これまで取得した資産・負債等の情報を含める企業会計事務を取り入れた決算書であり、4つの表で構成されています。

## 対象となる会計範囲

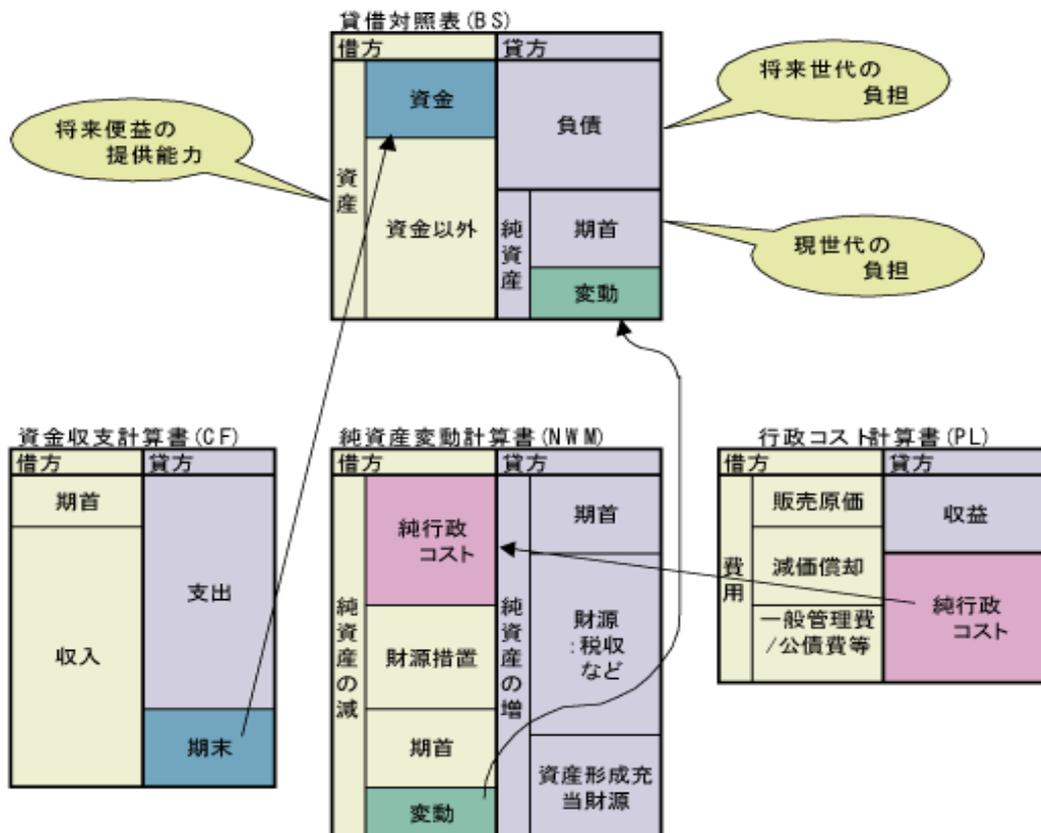
4つの財務書類は、一般会計及び関連する団体を含めた連結会計で区分し作成します。

区 分	対象となる会計
連結会計	一般会計
	茨城県市町村総合事務組合

## 【財務4表の関係】

貸借対照表の純資産は国・県からの補助金や自団体の財源で負担した部分を表しており、この純資産の変動を表したものが純資産変動計算書になります。行政コスト計算書は純資産変動計算書における純経常行政コストの詳細な内訳明細です。資金収支計算書は歳計現金の動きを表す計算書ですが、期末歳計現金残高は貸借対照表の歳計現金残高と一致します。

このように財務4表の相互関係は下図のようになります。



## 【貸借対照表】

現在の筑西広域市町村圏事務組合がどれだけ財産を持ち（資産）、いくら借金を抱えているか（負債）を、全体像としてとらえた表です。

資産（土地・建物・資金など）や負債（借金など）がどのくらいあるかを一覧にしており、左側（資金の使い道）は資産を、右側（資金の調達）は負債と純資産を表し、左右が同額となります。

[貸借対照表（PDF約102KB）一般会計](#)  
[貸借対照表（PDF約105KB）連 結](#)

## 【行政コスト計算書】

地方公共団体の行政活動は、明らかになる資産・負債の状況だけではなく、人的サービスや給付サービスなどの資産に繋がらない行政サービスが大きな比重を占めており、そういったサービスに対して、どれだけコストがかかっているかを、性質別、目的別に分析するためのものです。

1年間の行政活動のうち、資産形成につながらない行政サービスに要する経費（経常行政コスト）とその行政サービスの対価として得られた財源（経常収支）を対比させた財務諸表です。

[行政コスト計算書（PDF約101KB）一般会計](#)  
[行政コスト計算書（PDF約103KB）連 結](#)

## 【純資産変動計算書】

貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値が1年間でどのように変動したかを表している計算書です。

純資産変動計算書は前期末の純資産の各項目の残高が、1年間でどのような要因で、どのように変動し期末残高になったかを示しています。

純資産の変動は、行政コストによる要因と、行政コスト以外の要因によるものの2つに大別でき、それぞれ行政コスト計算書、純資産変動計算書で示されます。

純資産変動計算書の純行政コストは、行政コスト計算書の純行政コストと一致します。

[純資産変動計算書（PDF約101KB）一般会計](#)  
[純資産変動計算書（PDF約104KB）連 結](#)

## 【資金収支計算書】

資金収支計算書とは、資金の増加又は減少を意味し、一会計年度における資金収支の状況を「行政活動」「投資活動」「財務活動」の3つに区分して、それぞれの活動における資金調達の源泉及び資金用途を明らかにしたものが資金収支計算書です。

[資金収支計算書（PDF約102KB）一般会計](#)  
[資金収支計算書（PDF約105KB）連 結](#)